

自然災害被災地への募金活動の成果

宇都宮文星なでしこインターアクト・クラブ

ネパール地震の際の緊急募金の総額はみなさんにご協力いただいた結果、59,221円集めることができました。ご協力ありがとうございました。なお、IACから779円を募金協力し、募金総額を60,000円とし国連難民高等弁務官事務所に寄付しました。私達のお金を含め、UNHCRで集まったお金は、シェルターとして利用できる防水シートやビニールシートに当てられました。ちなみに日本円1円は1ネパールルピー程度で平均年収は日本円で約4万円です。プリクラ一回分の400円で500mlのペットボトル約50本、25L分ネパールでかえることができます。

ネパール中部で今年4月25日、マグニチュード7.9の強い地震が起きたこの地震による被害の犠牲者は8773人、負傷者14398人、倒壊した家76万棟、死者数8460人にも及びました。

また、犠牲者の28%は子供でした。食料支援が必要な被災者300万人に及び、これは栃木県の人口の200万人をも上回りました。いまだ食糧支援が必要な被災者の数はなかなか減っていません。今、復興状況も滞っている上に季節風の影響による雨が、子供達をさらなる危機に晒しています。特に避難している人々にとって、地滑りや洪水、水に関する病気は脅威です。激しい雨によって、道路が閉鎖されるなどの弊害が出ており、地滑りに対する救命活動や被災地域への支援物資の輸送が妨げられています。



4月25日に地震は起きましたが、わずか一ヶ月後の5月25日までにUNHCRは、およそ4万2500枚の防水シートとおおよそ8000個のソーラーランタンを配布しました。震災直後は土砂崩れや道路損傷などにより被災地への接近は阻まれたため、物資輸送が上手くいかなかったそうです。

また、歴史的建造物や世界遺産にも壊滅的な被害が出ました。

現在、難民キャンプで過ごす人の数はだんだんと減ってきてはいますが、村に帰ることのできない

人がまだ居ます。その人たちは心配で眠れない日々を過ごしています。



4年半前に起きた東日本大震災の際には、震災後約2ヶ月間で、23の国と地域からの緊急援助隊や医療支援チームが日本を訪れ、被災地を中心に活動しました。各国・地域が派遣した支援チームは、熱心に救助・捜索活動、がれき撤去作業、医療活動などに従事くださり、また、隊員たちは言語の壁を越えて地元の人々との交流を図り、その存在と活動ぶりは各地の被災者の方々を大いに勇気付け、励ますものでした。先進国だけでなく、多くの途上国から

も惜しめない日本支援の手が差し伸べられました。国際社会からの温かい激励と支援は、世界が日本を必要とし、その復興・再生への期待の証しでもあります。国際社会に感謝しつつ、今後、日本は一日も早く復旧・復興し、あらためて世界のリーダー国の一つとして、いろいろな形で国際貢献をつうじて「恩返し」ができるようにならなくてはなりません。



日本では、9月の台風18号 Etau の被害もありました。鬼怒川の堤防決壊が起き、多大な被害を受けた茨城県常総市。約6500棟が浸水、ピーク時には約1000人が孤立状態となり、現在も取り残された住民の救助が行われました。この大雨により、茨城県常総市で男性二人が死亡。行方不明となっていた15人全員の無事が確認されました。

被災地では、ごみ処理をめぐる問題が新たに浮上しました。

インターアクトでは、校内に募金箱を設置し、皆さんからの義捐金を呼びかけました。結果、16939円を募り、インターアクト・クラブから61円を加算しまして、合計17000円とし、こちらは常総市鬼怒川水害義援金に寄付いたしました。

生徒のみなさんや職員の先生方のあたたかいご協力をありがとうございました。

